



経 歴	
平成3年 4月	総務庁採用
平成10年 8月	同 人事局企画調整課課長補佐
平成11年 7月	同 人事局高齢対策課課長補佐
平成12年 8月	総理府大臣官房管理室公益法人企画担当参事官補
平成13年 1月	内閣官房行政改革推進事務局行政委託型公益法人等改革推進室
平成14年 5月	総務省行政管理局副管理官
平成16年 7月	同 行政評価局総括評価監視調査官
平成17年 8月	同 大臣官房秘書課長補佐
平成19年 7月	同 人事・恩給局総務課企画官
平成20年 8月	茂木国務大臣秘書官
平成20年 9月	甘利国務大臣秘書官
平成21年 9月	総務省人事・恩給局総務課企画官
平成22年 1月	同 行政評価局評価監視官
平成23年 7月	同 行政管理局管理官
平成24年 1月	現職

「国のために働く」のは今！

内閣官房行政改革実行本部事務局参事官 平池 栄一

国のために働きたい

この原稿を書くに当たり、20年以上も前の自分の就職活動を思い出しました。当時の日本はバブル絶頂期で、特に銀行・証券会社といった金融関係の企業が学生の人気が高く、今とは異なり全体的に学生にとって有利な売り手市場でした。一方で「国のために働きたい」という動機で国家公務員を希望する学生も多く自分もその一人でした。民間が活発な中でも国を支えたいという学生は多かったのでしょうか。

今の日本の状況は20年前とは全く違います。経済成長は横這いで中国など新興国の勢いは明らかに差があります。世界情勢は欧州金融危機、イラン・北朝鮮情勢など不安定要素を多数抱えています。昨年3月の東日本大震災では東北地方を中心に壊滅的な打撃を受けました。このような時代こそ国を支える人材が求められているのではないのでしょうか。自分自身、20年前の「国のために働きたい」という気持ちを今思い出して日々仕事に取り組んでいます。

行政全体のマネジメント機能

自分は平成3年に旧総務庁に入りました。色々な省庁の中でも、個別の行政分野ではなく行政全体を見渡す視点というのに大変関心を持ちました。当時から各省庁の「縦割り行政の弊害」ということが指摘されていましたが、縦割りだからこそ各省庁を横断的に「横申し」にする機能が重要であり、それが今の総務省の大きな役割でもあります。各省庁の「人材」に関する制度(国家公務員制度)、「組織」に関する制度(国家行政組織法、定員制度)、「評価」に関する制度(政策評価法)など「横申し」の制度を所管し、これらを通じて行政全体の最適な在り方を具体化していくこと、いわば「行政全体のマネジメント機能」が総務省に求

められています。

以前は日本経済とともに税収も右肩上がりだったのですが、現在のような横這い又は右肩下がりの中では、各行政分野すべてが拡大というわけにはいきません。優先順位を付けつつ全体のバランスも取るという微妙な舵取りが求められます。各省庁の「横申し」機能を持つ総務省が「行政全体のマネジメント機能」を発揮してうまく舵取りを行うことが昔以上に重要だと感じています。

ミクロの議論とマクロの構想

今年の1月まで、自分は行政管理局という部署で各省庁の「組織」に関する仕事をしていました。特に、内閣府、総務省、財務省の「組織」=「機構・定員」の審査を担当し、担当省からの課の新設や定員増の要求に対して、その必要性、効果を考えながら年末の予算概算決定に向けて査定します。自分のほかに他省庁の担当が複数存在して、それぞれ担当省庁と査定プロセスで議論を重ねた上で最終的な全体の姿が決まっていきます。



今改めて感じるのが、「行政全体のマネジメント」と言っても、それは各省庁との地道な議論の積み重ねを基にしていることです。このように行政の現場に即した議論と、それを踏まえた行政全体の在り方をどうするかという構想、いわばミクロの議論とマクロの構想の両方が求められます。両者を行政全体という場で楽しむことができるのが総務省の醍醐味なのかもしれません。

今こそ！

この文章を読む方は多少なりとも「国のために働きたい」という気持ちをもっていることと思います。20年前とは比べ物にならないくらい国の役割が必要とされており、その中でも行政全体のマネジメント機能はますます重要になっています。決して楽な仕事ではありませんが、ミクロの議論からマクロの構想まで、総務省には様々な能力を発揮する場があります。遠慮せず皆さんの気持ちを総務省にぶつけてみてください。「国のために働きたい」思いを実現するのは今です！

経 歴

平成15年 4月	総務省採用
	同 人事・恩給局恩給企画課法規係 併任 総務課恩給審理官室
平成16年 4月	同 大臣官房総務課総括国会係
平成17年 4月	同 行政管理局主査 (宮内庁・国土交通省担当)
平成18年 1月	内閣官房行政改革推進事務局公務員制度改革推進室係長(定員純減総括) 併任 行政改革推進調整室係長(行政減量・効率化有識者会議(総人件費改革)総括)
平成18年 7月	総務省行政管理局主査(防衛庁・外務省担当)
平成19年 1月	同 行政管理局主査(外務省・防衛省担当)
平成19年 4月	内閣官房行政改革推進室係長(専門調査会担当)
平成19年 7月	内閣府国民生活局企画課 個人情報保護推進室政策企画専門職
平成20年 7月	併任 内閣官房消費者行政一元化準備室主査
平成21年 4月	千葉県総合企画部政策企画課企画調査室主幹(全国知事会・八都府市長首脳会議等及び地方分権担当)
平成22年 4月	同 企業庁地域整備部幕張新都心整備課長
平成23年 4月	現職

逃げずに真っ直ぐ立ち向かえ！

総務省人事・恩給局参事官補佐(退職手当第一担当) 大堀 芳文

どんな嵐の中でも、船は、帆先を真っ直ぐにして進めば沈まない。横や後ろに逃げると沈んでしまう。困難なことがあったら、逃げずに真っ直ぐに立ち向かうことが大切だ。

これは先日放映されたあるテレビ番組の中で、JR九州社長の唐池恒二氏が交渉術について発言されたときの内容です。

このパンフレットをご覧になっている皆さんは、ご自身の将来像を頭の中で描きながら、それと一番じっくりくる職場はどこなのか、ご自身が一生をかけて取り組むべき道(職業)はどれなのか、複数ある選択肢の中から、国家公務員、特に総務省職員を視野に、いま真剣に思案されている最中だと思います。

さらに、今年度から採用試験が新しくなり傾向と対策が立てづらかったり、あるいは人によっては学校の取得単位が卒業規程値に達していなかったりと、色々大変なことが重なっているかもしれません。

人それぞれ置かれた環境も与えられた条件も異なる中で、時間だけが平等に与えられている中であって、皆さんそれぞれが、それぞれにとっての「困難」に立ち向かって、必死に苦心されています。こうした状況は、実は(ご存知のとおりですが)受験や就活の世界に限られるものではありません。今後皆さんがどのような進路を選択されようとも、それが国家公務員であっても、そうでなくても、同じような状況は必ずやってきます。一連の公務員試験は、その後公務員として実際に困難な場面に遭遇したときにしっかりとそれに対応することができるか、その基礎体力を備えているかの試練と言っても過言ではないと思います。色々なものが重なった困難な状況を乗り越えたとき、結果がどうであれ、人間として強たくましくなれると思います。

唐池社長の御発言は、こうした私の考え方

を端的に言い表していると思います、皆さんへの応援メッセージとして、冒頭で引用させていただきました。

活躍の場が広い「総務省」

現在、私は「国家公務員退職手当法」を所管する部署で働いています。私は24年度で入省10年目になりますが、公務員の人事制度に携わるのは、今回が初めてです。

この法律は、行政府の一般職員のみならず、裁判官や裁判所職員、検察官、自衛官、衆議院職員、参議院職員など、国家公務員と呼ばれるほぼ全ての人(行政府の定員30万人を含む、64万人)が、退職する際に直接適用される法律です。これほど広範囲に適用される法律はあまり例がありません。それだけ制度変更や法解釈の変更が及ぼす影響が大きく、かつ、昭和28年法制定以来多くの法解釈が積み重なっているため、通常以上に整合性・一貫性が求められる中で、日々業務を遂行しています。

こうした「制度」を所管する部署を「制度官庁」と呼ぶことがありますが、総務省の持つ顔はこれにとどまりません。電気通信事業等の「業所管官庁」の顔もありますし、予算の一部として行政機構・定員を査定する「査定官庁」の顔などもあります。「実はここにも総務省」というキャッチフレーズが物語るとおり、総務省の所管するフィールド自体が広いのです。その上で、私の経歴や、他の先輩方のご経歴をご覧いただければわかるとおり、他省庁への出向や、地方自治体での勤務、地方支分部局(地方の出先)での勤務から、大使館・総領事館や民間企業での勤務まで、皆さんには、様々な活躍の機会が用意されています。

懐も広い「総務省」

さらに、活躍の場が多いということは、自ずと、違う経験を積んだ職員が総務省には多く

集まっているということです。私もこれまで1つの部署に長くて1年しか在籍しておらず、異動、異動の繰り返しです。そのたびに新しい業務に就くと同時に、初対面の諸先輩・同僚と出会い、そして様々なことを学ばせていただいています。個性の違う、経験も違う職員が一堂に会し、同じ業務をする。総務省の強みは「人材力」だと思います。どの組織にも負けないOJTがあり、個性豊かで能力の高い皆さんを受け入れる体制がここにはあります。

魅力広がる「総務省」

皆さんの高い能力は良い組織(良い上司・同僚)でこそ伸ばされ、十二分に発揮されると思います。

ご自身が公務員になって何をしたいのか、なぜ総務省なのか、という点について一度整理をされ、できれば曲がらぬ「信念」にまで高めた上で、ぜひ公務員試験に、総務省への官庁訪問に臨んでみてください。

入省後は、その信念が「初心」となって、長く公務の世界で国民のために全身全霊で動いていく礎となるはず。そして皆さんが、総務省の魅力を高める人材となります。



幕張新都心まちづくり協議会(MMK)・千葉県企業庁共催「幕張新都心クリーンの日」2010秋一斉清掃にて(筆者左)